

程度副詞「ちょっと」をめぐる文体差
—日本語学習者作文コーパスから見られる傾向—

高野 愛子

Stylistic Issues in Use of the Degree Adverb *chotto*:
Patterns of Usage in a Corpus of
Writings by Japanese Learners

TAKANO Aiko

Abstract

For the degree adverb *chotto*, describing how the quantity or degree of something is little or low, there are several synonyms such as *sukoshi* and *shosho*. Dictionaries do not provide adequate explanations and examples for clarifying the differences in the stylistic usages of these words, and textbooks on writing for learners of Japanese differ in their classification and explanation of these words. They agree that *chotto* is not appropriate for reports and papers, but they provide different standards as to whether *sukoshi* and *shosho* should be used instead. Some confusion may therefore be expected in usage by learners of Japanese. Accordingly, the present study investigates the usage of these low-degree adverbs in a corpus of writings by Japanese learners to determine, firstly, the learners' patterns of use, and secondly, the corrections applied to their usage. The main finding is that use of *chotto* is highest for Japanese learners at beginners' levels. Correction of such erroneous overuse of *chotto* most commonly replaces it with *sukoshi*, but *shosho* is also frequently used. Thus, the correction applied is not fully determined, and seems

to depend on the subjective view of the checker. It is thus necessary to set up examples of different categories of use which may serve as criteria.

1 はじめに

1.1 研究の目的

日本語学習者（以下、学習者）がレポート・論文を書く際の問題点として、「だから」「すごく」等、論説文には不適切な表現を用いることが挙げられる。学習者にとってこのような文体差のある類義表現の習得や運用は困難であり、石黒（2004）も「語の文体差の記述は辞書にもほとんど見られないし、あっても不十分なものであるため、学習者は自分の書いた文章を母語話者に見てもらう以外、語彙選択の指針を得る方法はないのが実情である」と指摘している。その指針とされる日本語母語話者であるが、語感でそれが不適切であると判断できても、どのような代替の表現で訂正すればよいか躊躇することがあり、個人の語感によって選択する語が異なることも多い。

そのような判断が分かれる語のなかの一つに、程度副詞「ちょっと」がある。程度副詞「ちょっと」の意味・用法は多岐に渡り、会話でも学習者にとって用法自体の使い分けが困難とされるものである。グループ・ジャマシイ編著（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』では、「ちょっと」の意味・用法について以下のように分類している。（解説は省略、例文は辞書より一文抜粋、下線は筆者）

- ①程度 量の少なさ、程度の低さを示す。話しことばで使うのが普通
 ・今日はちょっと寒い。 ・手紙をちょっと書き直した。
- ②和らげ a ちょっと〈程度の和らげ〉 ・ちょっと手伝ってください。
 b ちょっと〈語調の和らげ〉 ・一日で仕上げるのはちょっと
 無理だ。
 c 言いさし〈語調の和らげ〉 ・あ、すみません。まだ、ちよっ
と…。
- ③プラス評価 ・この先にちょっといいレストランをみつけた。

④「ちょっと・ない」の形で

a プラス評価 ・こんなにおもしろい映画は最近ちょっとない。b 語調の和らげ ・すみません。ちょっとわかりません。⑤よびかけ ・ちょっと、だれか来て手伝って。

⑥ちょっとしたN

a ちょっとしたN〈程度の和らげ〉 ・ちょっとしたアイデアb ちょっとしたN〈プラス評価〉 ・ちょっとした驚きだった。

本論では、これらのうち「①〈程度〉量の少なさ、程度の低さを示す」意味・用法にあたる類義語の文体差について検討する。量の少なさ、程度の低さを示す副詞「ちょっと」の類義語としては、「ちと」「ちよっぴり」「少し」「少々」「多少」「わずか」「やや」「若干」「いささか」等があるが、辞書により項目の取り上げ方、記述にそれぞれ違いが見られる。

1.1.1 辞書における「ちょっと」と類義語の記述

以下は、各種辞書・日本語学習者用辞典における、「ちょっと」をめぐる類義語の「文体」に関する情報と類語情報を抜粋したものである。日本語学習者が調べることを想定し、国語辞典はオンライン辞書の記述を引用する¹⁾。

	デジタル大辞泉
いささか	[文]
若干	→多少
わずか	[文]
やや	類語 ちょっと ちよいと ちよっぴり 少少
多少	「若干」は文語的で語感が硬い。
少々	類語 ちょっと ちよいと ちよっぴり やや
少し	「ちょっと」は、ややくだけた言い方。類似の語に「少々」がある。「少し」「ちょっと」に比べ文章語的。
ちょっと	類語 ちよいと ちよっぴり 少少 やや

¹⁾ 鈴木・高野（2015）によると、調査対象の中上級日本語学習者30名が文章を書くときにふだん使用する辞書のタイプは、複数回答で、スマートフォンやPCの辞書アプリケーション25名、ウェブ上でアクセスできるオンライン辞書20名で、オンライン辞書を使用する傾向が顕著である。

	『現代副詞用法辞典』(1994)	『日本語 語感の辞典』(2010)
いささか	ややかたい文章語、会話で用いられる場合にはややあらたまった口調になる。	やや改まった会話や文章に用いられる、いくぶん古風な和語。
若干	かなりかたい文章語、公式の発言や報道	少し改まった会話や文章に用いられる、硬い感じの漢語。
わずか	*形容詞用法辞典(1991)文体に関する記述なし	「少し」よりいくらか改まった感じの日常的和語。
やや	ややかたい文章語、くだけた会話にはあまり登場しない。	改まった会話や文章に用いられる和語。
多少	ややかたい文章語、公式の発言など	会話にも文章にも使われる漢語。
少々	・ややかたい文章語で、公式の発言やあらたまった挨拶 ・あらたまった文脈で用いられる。 ・「ちょっと」はくだけた表現で、あらたまった挨拶にはあまり用いられない。	「少し」の意で改まった会話や丁寧な手紙などに用いられる語。
少し	・「ちょっと」はややくだけた表現 ・「しょうしょう」はややあらたまった場面で	くだけた会話から硬い文章まで幅広く使える最も一般的な日常的和語。
ちょっと	「しょうしょう」ややかたい文章語公式の発言やあらたまった挨拶などによく用いられる。	「ちょいと」ほどではないが、「すこし」よりくだけた会話的な和語。

以上のように一覧にするとその違いがわかるかもしれないが、井上(2010)が「語の文体判断が国語辞典において必ずしも一致するものではない状況が確認される」と指摘し、村岡(2008)でも学習者における困難点として「文章ジャンルを支える要因の一つとしての語彙の文体的特徴」は「辞書の記述から最適の選択肢が容易に見えてくるものではない」と指摘しているように、辞書内で別の項目として頁に掲載されていると、比較して適切な語を選択することはより一層困難であろう。

1.1.2 日本語学習者用辞書における「ちょっと」と類義語の記述

以下に、日本語学習者用辞書の記述の一部を概観比較できるようまとめた。

日本語学習者用辞書における「ちょっと」と類義語の記述

		級	『教師と学習者のための日本語 文型辞典』(1998)	『どんなときどう使う日本語語 彙学習辞典』(2014)
↑ 硬 軟	いささか	級外	「すこし」「いくらか」という意味。 ・今回の試験は前回に比べてい ささか難解すぎたように思う。	
	若干	①		
↑ 硬 軟	わずか	②	うしろに数量を表す表現を伴っ て、話し手がその数量を少ない と思っていることを表す。また、 「わずかに」の形で、量がきわ めて少ない様子を表す。・さい ふに残っていたのはわずか200 円だった	[ナ形] little, only ・収入が僅かに上がった。 類少ない、少し [(副) わずか] ・昨年のこの試験の合格率はわ ずか1割だった。 類 たった
	やや	②		[副] slightly, a little ・あの兄弟はよく似ているが、 弟の方がやや背が高い。 「少し」「ちょっと」よりかたい 言葉。
	多少	②		① [副] a little ; (regardless of) the amount ・寒い日が続いている が、今日は多少暖かい。 「ちょっと→すこし→少々/多 少」の順にかたい言葉になる。 ② [(名)] ・「お買い上げ商品の 多少にかかわらず、無料でお届 けします」
	少々	②		[副] a little, a moment ・〈料理〉魚は水気を取り、塩 を少々ふっておきます。・「少々 お待ちください」「少し」より かたい言葉。
	少し	④		
↓	ちょっと	④	程度 量の少なさ、程度の低さ を示す。話しことばで使うのが 普通 ・今日はちょっと寒い。 ・手紙をちょっと書き直した。	

下線：筆者 太字：「文体情報」の記述として筆者 英語訳の他に中国語・韓国語・ベトナム語訳あり

並べ方は、『日本語能力試験 出題基準』(2007)における語彙級の難易度で難しいものを上段、『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』(2014)の

「多少」の解説「『ちょっと→すこし→少々／多少』の順にかたい言葉になる」を参考に、上段ほど硬く、下段ほど軟らかい順に仮に配置した。網かけ部分は記述がなかったものである。

上記のように、類する語のすべてがあるわけではなく、基準となるであろう「少し」は両者とも項目自体がないため、辞書内でも文体差を比較することは難しい。

1.1.3 文章表現の教科書における「ちょっと」と類義語の扱い

ほとんどの作文・文章表現関連の教科書では「ちょっと」をレポート・論文などの書き言葉では不適切である例として取り上げている。しかし、その説明の用語、類する語の扱いには以下のような相違が見られる。

〈文章表現の教科書における扱い〉

	ちょっと	少し	少々	わずか	やや	多少	若干
①論理的な文章の書き方	話し言葉の表現	である体				である体	
②プラクティカル日本語	会話体	です・ます体	である体			である体	である体
③大学で学ぶための日本語	会話の表現			レポートや論文			
④小論文12のステップ	話し言葉 軽い文章	小論文	話し言葉 軽い文章	小論文			
⑤ここが大切 文章表現	話し言葉 *	軟らかい 書き言葉 **				硬い書き 言葉	
⑥パラフレーズ練習	口語的な 表現	レポート の表現		レポート の表現	レポート の表現		

①～⑥：教科書名は略称（参考文献参照） * 「ちょっとでも」 ** 「少しでも」

上記の教科書では、「ちょっと」に類する語として「少し」「少々」「わずか」「やや」「多少」「若干」が取り上げられているが、取り上げる語とその文体カテゴリーの説明が教科書により異なっている²⁾。まず、「文体」の説明につ

²⁾ 文体に関する項目において、その数と種類が教科書によって差があり、指導が特定の課でしか扱われないことは永岡（2009）が、語感や説明の表現が統一されていないことは高野（2010）が指摘している。

いて見てみると、「ちょっと」の文体は、「話し言葉・会話・口語的」で「軽い」という点が共通しており、論説文では明らかに不適切であることがわかる。「少し」は、「ですます体②」：「である体①」、「軟らかい書き言葉⑤」：「小論文④」「レポートの表現⑥」と、対立する異なる文体・語感の説明がなされている。さらに「少々」を取り上げている教科書は②④のみであるが、②では「である体」で、④では「話し言葉・軽い文章」で使用しており、両者において文体的には反対の扱いになっている。

これらの教科書が示している通り、「ちょっと」は、レポート・論文等の論説文で使用することは不適切であるという点で共通している。しかし、上述のように「少し」「少々」には、用法の記述や分類の仕方に「ゆれ」や「曖昧さ」があり、実際にも、各添削者の語感によって行われていると思われる。

このように、学習者のレポート等によく見られる「ちょっと」の使用に対し、どのように添削し修正を示せばよいか、類義の代替表現をどのように示せばよいか、辞書・教科書の記述・解説の範囲からは、曖昧な点が多いということがわかる。

そこで、本論では、日本語学習者コーパスを調査することによって、低さを表す程度副詞「ちょっと」の類義語「少し」「少々」「わずか」「やや」「多少」「若干」「いささか」をめぐる学習者の使用傾向、添削の実際を明らかにすることを目的とする。「少し」「少々」は論説文において使用できるのか否か、適切な代替の表現は何か、学習者自身がより適切な語が選択できるように、添削者側にとっても判断の基準となるよう検討したい。

2 先行研究

程度副詞と文体差に関する先行研究として「程度副詞」の意味・用法に焦点をあてたもの、「文体差」に関するもの、「学習者における問題」を扱ったものに分けて以下に概観する。

2.1 「程度副詞」に関する研究

「ちょっと」「少し」「少々」は、副詞の「情態副詞」「程度副詞」「陳述副詞」の三分類のうち「程度副詞」として分類され、程度副詞に関する研究として

は工藤（1983）が多くの研究の基盤となっている。「程度副詞」は「(相対的な) 状態性の意味をもつ語にかかって、その程度を限定する副詞」と定義され、程度副詞とされる代表的なものとして挙げられている中で程度の低いものは、「すこし ちょっと 少々 多少 心持ち やや」である。形式的に「すこし・ちょっと・多少・少々」「いくらか」「いささか」は数量名詞性があり、「すこし」「ちょっと」は量性の濃いものとされている。文体的な差には触れられていない。

また、沖（1983）は、小さな程度を表す類義の関係にある副詞として、「いくぶん・いささか・かすかに・心もち・少々・少し・多少・ちょっと・ちょっぴり・ほのかに・ほんのり（と）・やや・わずかに」の14語を挙げている。この14語に意味・用法上の微妙な違いがあるとして、①出現程度②感情程度③状態程度④時間程度⑤距離程度⑥その他の多寡程度⑦動作量程度⑧分離量程度の八種の程度内容に分類し、「小さな程度を表す副詞のマトリックス」として、x軸〈程度内容〉とy軸〈小ささの度合い〉の二軸の尺度によって分析・記述している。文体の差異については言及されていないが、さらにz軸として文体差が示されれば視覚的に理解できる可能性があるだろう。

2.2 「文体差」に関する研究

「文体」は「個性的文体」「類型的文体」とに大別される³⁾が、本論では「類型的文体」の意で用いる。ことばの文体差という観点から、語彙的な位相の区分を示している主な研究には以下のものがある。

宮島（1972）…3分類

「俗語」「日常語」「文章語」

³⁾ 日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』による定義。「個性的文体」とは、「漱石の文体」や「源氏物語の文体」のように特定の作家や作品の言語表現の個性的な特徴を指し、「類型的文体」とは、「語彙・語法」「文章のジャンル」「修辞」の観点から類型的に捉えた特徴を指しているもの。

宮島（1977）…上記の「日常語」をさらに3種に分けた5分類

「俗語」「くだけた日常語」「無色透明な日常語」「あらたまった日常語」
「文章語」

田中（1999）…5分類（接続表現の用法）、さらに「一般」＝「普通」の文体

「会話的」「話しことば的」「一般」「書きことば的」「文語的」

∥

「うちとけた」文体 ←「普通」の文体 →「かたい」文体

井上（2009）…5分類

「卑俗体」<「口語体」<「汎用体」<「書記体」<「文語体」

*語の「かたさ」の大小（書きことばらしさの程度）を不等号によって表示

石黒（2011）…3分類

「話し言葉専用」「話し言葉・書き言葉兼用」「書き言葉専用」

←軟らかい（話しことば的） 硬い（書きことば的）→

柏野（2013）…5分類 ※ただし、語単位ではなく、書籍サンプルテキスト構造の内容

「専門度」「客観度」「硬度」「くだけ度」「語りかけ度」

これらの文体差に関する研究の基盤となっているのは、宮島の3分類（1972）・5分類（1977）である。その後の研究においても3分類と5分類となっているが、上記のように、分類の基準、区分の仕方をはじめ、文体に関する用語（術語）は統一されていない。「くだけた-あらたまった」「うちとけた-かたい」「口語体—文語体」など「軸」がそれぞれであり、必ずしも「話し言葉」「書き言葉」と分けられるものでもなく⁴⁾、学習者がことばの感覚を理解し適切に運用できることの支障となっている。

⁴⁾ 石黒（2015）では、「書き言葉」の文体は「フォーマル」、話し言葉の文体は「カジュアル」と考えられることが多いが、「フォーマル／カジュアル」にはそれぞれ二つの観点；言語の内容面に関わる「硬さ／軟らかさ」と、言語の対人面に関わる「あらたまり／くだけ」という観点が入り込んでいるとし、「フォーマル／カジュアル」の対立・文体の差を2本の座標軸で組み合わせて位置づけている。

上記のどの分類でも共通に述べられているのは、語の文体の境界・分類・区分の連続性（宮島 1977）、不透明・連続的・相対的（井上 2010）であり、境界線が曖昧（石黒 2011）で、その判断には揺れ・個人差が生じやすい（井上 2010）ということである。前川（2008）も「口語文法といい文語文法といっても、実際には、くっきり異なった二つの文法体系が存在しているわけではない。実際に存在しているのは、さまざまな口語的表現の生起率の連続的な変化（グラデーション）である」と述べている。

辞書における文体の情報は、「文章語」「俗語」等と表示される程度で明解に記述されず質量ともに不十分であることは、石黒（2004）・井上（2010）でも指摘され先に概観したとおりである。理解の助けとするために肝要なのは、宮島（1977）が主張しているように、「対象を分類するためにどこかに線をひくことよりもまえに、対象を程度の差によって一定の順にならべること」で、「とくに、意味のちかい単語のあいだでの文体的な段階づけをすること」であり⁵⁾、文体差・語の位相差を「← →」（田中 1999）（石黒 2011）、「 < >」（井上 2009）等のように、よりどちらかに近いかを示すことは、相対的にその差が可視化されてわかりやすい表示法といえるであろう⁶⁾。

2.3 日本語学習者における程度副詞の使用に関する研究

日本語学習者における程度副詞の使用に関する研究として、小寺（2000）は、初級から中級学習者の「発話」にみられる副詞の使用について分析し、被験者に共通して使用頻度が高い語として、「ちょっと」「たぶん」「いつも」があり、これらすべてが初級クラスで使用されている教科書の前半部分で提出されていると指摘している⁷⁾。この使用頻度が高い副詞のうちのなかでも

⁵⁾ 具体的には以下、「昨日」という単語にとってだいじなこと、辞書の記述などで注意すべきことは、これにたとえば「文章語」というような絶対的なレッテルをはることよりも、それがすくなくとも「きのう」に比べれば文章語的なことをしめすことである、と述べている。

⁶⁾ 実際に筆者が授業内の板書で学習者に確かめたところ、「 < >」（井上 2009）の示し方が理解しやすいという反応が得られた。

⁷⁾ 先に 1.1 で挙げた『教師と学習者のための日本語文型辞典』の用法を基盤とし、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）全 50 課中、①「程度」6 課、②-a「程度の和らげ」11 課、②-b「いいさし」9 課、⑤「よびかけ」28 課

多用されていたのが「ちょっと」であり、その用法のうち最も基本的な「程度」が最も早く習得され、その後に他者への配慮を表す「和らげ」や「いいさし」などが出現し、プラス評価の意味を含む「ちょっと」は出現しなかったと分析している。

また、片山・舛井(2006)は、初・中級の日本語教科書における程度副詞(属性の程度が大きい「すごく・とても・大変・非常に」)を分析し、それぞれの副詞には口語的か文章語的か、あらたまった表現かくだけた表現か、主観的か客観的かという対立に加え、種々の構文(否定文、比較文、命令文、直接的な感謝やお詫びの表現など)における使用制限に違いがあることを明らかにしており、示唆に富むものである。

渡辺史央(2010a)は高い程度と比較を表す程度副詞について文体差と意味用法の観点から分析し、さらに渡辺(2010b)で、留学生と日本人学生の論述文中に現れた副詞を分析している。三者の副詞(情態・程度・陳述)のうち、留学生の方が高い使用頻度を示したのは程度副詞であり、程度の低い副詞として「ちょっと、少し、あまり、やや、わずか」が挙げられている。そして、文体差を意識した使い分けについては留学生、日本人学生とも課題が残ったと述べている⁸⁾。このことから学習者にとってはさらに判断が困難であることが推察される。

3 研究の内容と方法：日本語学習者の作文コーパス分析

3.1 調査の方法

実際に日本語学習者はどのように「ちょっと」に類する程度副詞を用いているのか、添削はどのように行われているのかについて明らかにするため、公開されている日本語学習者作文コーパスを用いて調査を行った。

⁸⁾ 日本人学生と留学生の比較調査には、他に石黒(2011)、高野(2011)、山路・因・佐藤(2012)があり、文体の使い分けが日本語学習者だけの問題ではないことが指摘されている。

近年、日本語学習者の作文コーパスは様々構築されている⁹⁾が、本論では、学習者の作文に対する添削情報のあるもの、学習者のレベルがわかる以下のものを用いた。

コーパス名	日本語学習者 国籍・母語	作文数	レベル	添削情報 誤用タグ	形態
JLCTUFS 作文コーパス (2011) 東京外国語大学留学生日本語 教育 センター CD	JLCTUFS 在籍 55 カ国 277 人 37 カ国語	1515	8 初～超	なし	CD 作文：TEXT・PDF 情報：EXCEL
学習者作文コーパス「なたね」 Hinoki Project (2015年8月 現在) https://hinoki-project.org/natane/	大学院・大学等 192 人 9 カ国語	285	なし	あり 9024 件	オンライン上
日本語学習者作文コーパス (2010) http://sakubun.jpn.org	大学生 304 人 韓国語・中国語	304	3 初中上	あり	オンライン上

3.2 JLCTUFS 作文コーパス (2011)

このコーパスは、東京外国語大学留学生日本語教育センターで開発され、初級から超級まで 8 段階のレベル、55 カ国の学習者が書いた 1515 の作文データから成るものである。主に、レベル別にどのような使用状況が見られるか調査した。調査の方法として、CD 収録のテキストファイルを KWIC へインポートし、「ちょっと」「少し」¹⁰⁾等の類義語 8 語を検索して用例を抽出した。8 レベル¹¹⁾別の結果は以下の通りである¹²⁾。

⁹⁾ 寺村秀夫 (1990) 『外国人学習者の日本語誤用例集』 (大阪大学；データベース版、国立国語研究所、2011 年) 誤用の種類は、発音・表記語彙 (品詞別)・活用 (シンタクス) などであり、文体情報はない。誤用の種類を「副詞」で検索したところ、259 件の結果のうち、低い程度副詞の出現は 0 であった。

¹⁰⁾ 「少し」で検索したところ 207 件の結果が出たが、目視で「減少し」26 件を外した。(全て 500 レベル以上での出現であり、「減少する」が中上級以上の使用語彙であることが同時に判明した)

¹¹⁾ クラスの想定レベルは、旧・日本語能力試験における、500 が 2 級合格到達目標、800 が 1 級に合格済みという設定 (2009-2010 年度当時)。

¹²⁾ サンプル合計を基準としたため、1 サンプルに複数例が見られた場合でも 1 例として計算した。100-1 名が 3 例、200-4 名が 2 例、300-5 名が 2 例、400-1 名が 2 例、500-1 名が 2 例、700-2 名が 2 例使用。

JLCTUFS 作文コーパス 出現率（使用サンプル数÷各レベルサンプル者合計）

レベル	ちょっと	少し	少々	多少	やや	わずか	若干	いささか	サンプル合計
100 入門～初級	9 9.47%	4 4.16%							95
200 初級後半～	23 26.13%	10 11.36%		1*					88
300 初中級	43 11.02%	51 13.07%	3						390
400 中級前半	12 4.44%	34 12.59%							270
500 中級後半	13 3.88%	44 13.13%				5			335
600 上級前半	3 5.88%	8 15.68%							51
700 上級後半	12 6.55%	22 12.02%		7		2			183
800 超級	0 0%	10 9.70%				1			103
合計	115 7.59%	183 12.07%	3	8		8			1515

* レベル別用例

以下にレベル別の用例を挙げる（下線は筆者）。前の情報は、情報一覧ファイルから抜粋したもので、左から順に、【クラスレベル】作文番号〈国籍〉〈母語〉〈作文のテーマ〉の順である。

【100】2009110010070702 〈アイルランド〉〈英語〉〈将来のこと〉

ときどき、日本語の勉強がちょっとむずかしいです。

【200】2009220010111101 〈シンガポール〉〈英語〉〈日本へ来る前と日本へ来てから〉

しかし、東京の交通はシンガポールより高いことは、ちょっと大変です。

【300】2009230020111006 〈ドイツ〉〈ドイツ語〉〈日本でびっくりしたこと〉

まずわたしはちょっときょうがくしましたが、少しずつ慣らしました。

【400】2009240030121709 〈シリア〉〈アラビア語〉〈私が日本へ来るまで〉

大学に入ってからいろいろが変わった、例えば人といるともちょっと変わったほうがいいとか、友達は気をつけてえらんだほうがいいのをな

らった。

【500】 2009250031110405 〈ラオス〉〈ラオス語〉〈しくみの説明〉

日本ではゴミを分けている。私はちょっとびっくりした。

【500】 500 2009150020060409 〈カナダ〉〈英語〉〈自国の人口問題〉

まずは、カナダの政府と大企業からの考えられる対策や政策を簡単にちょっと説明します。(です・ます体指定／発表スクリプト)

3.2.1 「ちょっと」の出現傾向

「ちょっと」がレベル別で最も多く出現しているのが200レベルで約26%と全体の4分の1を占めている。このレベルは初級後半であり、教科書で学んだ表現を積極的に使っていることがうかがえる。その前後の100・300レベルがともに10%前後で、100～300レベルで計46.62%と約半数に迫り、初級から初中級レベルにおける「ちょっと」の使用率が著しく高い。この理由として、初級教科書で学んでいるということと、会話での表現がそのまま移行していることが考えられる。400・500レベルの中級がともに4%前後と低くなっているのは、この段階からレポート・論文らしい言葉の使い分けが導入され意識化されたためだと考えられるが、その後600・700レベルの上級で6%前後と上昇するのは、その意識が希薄になるからであろうか。800レベルの超級では0%と、文体差への意識の高さがうかがえる。

このコーパスの情報一覧ファイルには学習者の国籍・母語・レベル等の他に、作文のテーマ・宿題か授業中かの実施形態・字数指定・文体指定・筆記形態・その他条件が記されており、分析の手がかりとなる。そのなかでも「作文のテーマ」「文体指定」の項目は、産出された作文の表現に少なからず影響があると見られ注目してみた。「ちょっと」の出現率が高かった100～300レベルの初級～初中級の「テーマ」と文体指定は、100レベル「わたしの1日」(です・ます体)「日本に来る前と日本に来てから」(なし)、200レベル「日本と私の国との比較」(なし)等、随筆・エッセイ的なもので、レポート・論文らしい文体指定はなされていない。300レベルになってから「私の町」「国との比較」(なし)という随筆的なものから、「自国と日本の習慣の違い」「料理の作り方」等、説明文・意見文がテーマになり、文体も途

中から普通体へ移行している。これは、初級での作文の位置づけが、導入した語彙・文法項目の定着を図ることが中心であることを考えると当然であろうが、三牧（2007）は「会話教育」における文体の指導を「系統的」に「初級段階から文体を意識させる」ことを提案しているように、文章表現においてもその必要性があると筆者も考える。

また、500レベルでの13件のうち8件が口頭発表のスキリプトを作文にしたもので、話した言葉がそのまま使われている可能性がある。「硬い」話し言葉であるはずの発表の際に「ちょっと」を使用することの是非も今後の検討課題としたい。

3.2.2 「少し」「少々」「多少」「わずか」の出現傾向

「ちょっと」はレベル別に出現率に差が見られたが、「少し」は入門期の100レベルが4.16%と突出して少ない以外は、各レベルで約10~15%の間に分散している。このことから、「少し」は日本語学習者に平均的に用いられていると考えてよいであろう。「少々」で出現した3件は、「塩を少々入れる」1例、「塩 少々」2例で、すべてレシピの表現で同じ300レベルのクラスのものであった。これはテーマが「順・方法を説明する表現を使って説明する」で、トピックの性格上出現したものであると考えられる。「多少」は700レベルに集中して出現しており、「犯罪者たちがたとえ一生牢屋にいても、国の税金で生きていることになり、国の経済的なふたんも多少多くなるだろう。」¹³⁾のような使われ方が多く見られた。語のレベル的にも文のテーマ的にもバランスがとれている。（200レベルでの出現は、無意識的な使用とみられる。）「わずか」は、6例が、「わずか2人」「わずか8%」など、「わずか」+数量の用法、2例が「わずかしかない」（500）「誤差がわずかだ」（700）のような量性の意で用いており、「わずかに増えた」のような程度の低さを表す用法の例はなかった。

本コーパスでは「やや」「若干」「いささか」の出現は皆無であり、学習者が程度の低い意で副詞を用いる場合、「ちょっと」または「少し」を多用す

¹³⁾ 2009170030072310 インド・ヒンディー語・「死刑を廃止して『終身懲役刑』を導入すべきである」

る可能性が示唆された。

3.3 学習者作文コーパス「なたね」Hinoki Project

「なたね」は、Hinoki プロジェクト¹⁴⁾による日本語の学習者作文コーパスである。日本語学習者から収集した作文¹⁵⁾に対して日本語教師による添削を行った誤用タグを付与していることが特徴である。このコーパスを用い、「ちょっと」の出現状況、添削状況を調査した。検索条件は、検索文字列：「ちょっと」、検索範囲：誤用箇所と訂正例の両方、一致条件：完全一致誤用の対象：副詞、誤用の内容：混同、誤用の背景・原因：レジスタ（話し言葉と書き言葉）である。

以上の条件で検索したところ、結果は全 285 件のうち 35 件であった。目視したところ、それぞれ誤用 ID が分かれているものと同じのもので重複があり、用例としては 18 件が該当した。以下は、検索結果で得られた 18 件の結果の内訳、一部の用例、誤用タグの情報である。順に、学習者 ID、誤用箇所を含む例文（下線は筆者）、（誤用 ID、誤用の対象、誤用の内容、誤用の背景・原因、学習者の母語）¹⁶⁾である。

<p>ちょっと → 少し：14件 少々：1件 やや：1件</p>
--

添削の方法としては、「ちょっと」を 1 語で言い換えている例が 18 件中 16 例（88.9%）と圧倒的に多い。実際にもこのように添削者がかもともふさわしいと考える 1 語を示すことが考えられるが、その 1 語は「少し」「少々」「やや」と分かれている。

【ちょっと → 少し】

069_a 実は三つアルファベットを勉強ことは大変ですが ちょっと → 少

¹⁴⁾ 日本語学習者のための様々な学習支援・検索システムを無料で公開している。多言語対応日本語読解学習支援システム「あすなろ」、日本語共起語検索システム「なつめ」、学習者作文コーパス「なたね」、日本語作文推敲支援システム「ナツメグ」の 4 システムがある。https://hinoki-project.org/

¹⁵⁾ 東京工業大学、中国・西安交通大学において収集したもの、「インド・ブネー市学習者コーパス」を中心に収録されている。

¹⁶⁾ 全ての情報がそろっているわけではない。

考えたらその表記の利点に分かれます。(16737 レジスタ:話し言葉と書き言葉 16738 文体の不統一 スペイン語)

【ちょっと → 少々】

139_f 「みかんぐみ」って建築事務所の名前としては ちょっと → 少々 変わっている。(26946 誤用の対象:副詞 誤用の内容:混同 中国語)

【ちょっと → やや】

132_f 電車の中に誰も言っていないのに、僕の前の ちょっと → やや 年上のサラリーマンが「うるさい」と言った。(26562 誤用の対象:副詞 誤用の内容:混同 誤用の要因・背景 レジスタ::話し言葉と書き言葉 中国語)

132_f は「少し」「少々」でも、139_fは「少し」「やや」でも文体的に代替可能だと考えられるが、たしかにそれぞれ「やや年上」「少々変わっている」という表現が最も適切であるように判断でき、共起の結びつきが深く関係していると考えられ、文体と各語と共起するコロケーションの両面から分析する必要があるようである。

次に、以下の2例は、「ちょっと」の代替表現が複数で示されているものである。

ちょっと → いささか | 少し | 少々 1件

046_a ちょっと → いささか | 少し | 少々 ロボットに興味をもっている私はわくわくした。(15907 誤用の対象:副詞 15908 誤用の内容:混同 15906 レジスタ:話し言葉と書き言葉 中国語)

ちょっと → 少し | 若干 1件

114_a しかし、中国人にとってほかの外国語に比べると、日本語のほうが ちょっと → 少し | 若干 簡単だろう。(18748 文体の不統一 18749 レジスタ:話し言葉と書き言葉 中国語)

046_aの「いささか」は、「いささか興味を持っている」と用法的に共起しないと考えられ、ここでは適切ではないと考えられる。114_aは、「やや」も代替表現の候補となるだろう。学習者にとって「ちょっと」が不適切であ

るとはわかっても、この複数候補の語からどれを選択すればいいかは依然不明であり、添削者の迷いとも解釈でき、添削者側の意識や判断基準の問題提起となる例となった。

3.4 日本語学習者作文コーパス (2010) <http://sakubun.jpn.org>

このコーパスは、「自然言語処理の技術を利用したタグ付き学習者作文コーパスの開発」科研グループによって開発されたもので、二つのテーマ(1)「外国語が上手になる方法」(2)「インターネット時代に新聞や雑誌は必要か」の作文データが入っている。(1)は上記グループが収集したデータ、(2)は伊集院(2011)が収集したデータにタグ情報をつけて構築したものである¹⁷⁾。伊集院(2011)には、日本語を母語とする大学生が日本語で執筆した同じテーマの意見文も収録されており、母語話者(日本人学生)と非母語話者(学習者)の比較ができるものとして使用した。内訳は以下の通りである。

テーマ	母語	初級学習者	中級学習者	上級学習者	合計
(1)外国語がうまくなる方法について	韓国語	11	44	34	89
	中国語	20	56	27	103
(2)インターネット時代に新聞や雑誌は必要か	韓国語		6	49	55
	中国語		43	14	57
総計		31	149	124	304
インターネット時代に*	日本語		134		134

検索条件として、形態素単位で「ちょっと＝一寸」「すこし＝少し」等と、漢字表記でキーワードを指定した¹⁸⁾。また、検索オプションで、学習者のレベル別(初級・中級・上級)、主な母語(中国語・韓国語)でも検索を行い、以下のような結果が得られた。

¹⁷⁾ 伊集院(2011)「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」＝表の網かけ部分

¹⁸⁾ 形態素単位での検索は、UniDicの語彙素情報を使うため。

母語別・レベル別出現数

	ちょっと 一寸	少し	少々	多少	やや 稍	わずか 僅か	若干	いささ か些か	合計
韓国語	10 = 1+4+5	31 = 3+14+14	0	0	0	0	0	0	144
中国語	12 = 0+5+7	14 = 0+12+2	0	0	0	3 = 0+1+2	0	0	260
学習者	22 (7.2%)	45 (14.8%)	0	0	0	3	0	0	304
日本人	0	7 (5.2%)	3	0	0	0	0	0	134

(合計=初+中+上)

学習者は「ちょっと」よりも「少し」を用いる傾向があり、上級でも「ちょっと」の使用がみられた。さらに、「ちょっと」を用いた日本人学生が0であったことは、日本人学生にも文体意識の問題が指摘されていることから意外な結果であった。以下は「少々」を含む日本人学生の用例である。（下線は筆者）

(jp103) 少々話が飛躍するが、これからの時代の人間に求められているのは
思考力であったり、創造力であったりするの…（以下略）

(jp104) 私も読書が好きな方ではなく、活字に対して少々苦手意識を持って
いるが、古くからの文学作品などは、ドラマ化・映画化されても、
やはり原作より伝わってくる。

(jp103) 「少々話が飛躍する」は、筆者の語感としては許容できる範囲であるが、(jp104)の「苦手」は感情的な表現で論説文として避けたほうがよい表現であるため、「少々」が論説文で許容できるか否かさらに検討を要する。

また、「ちょっと」が添削された代替表現としては、ちょっと（→少し）7（31.8%）、ちょっと（→一部）1、ちょっと（→まだまだ）1、ちょっと（→×）削除1、修正なし12（54.54%）であった。「少し」が正用とされているものが3割あまりと多かったこと、日本人学生が「少し」を使用していることから「少し」は許容されていると考えていいようである。54.5%と半数以上に見られた「ちょっと」を修正しない以下のような例「(CN301) 日本語を勉強することは国の人によってちょっと違うと思う。」について、コーパスの情報だけでは判断できないが、許容とは考えにくくおそらく見落としであろう。

このことも含め、添削者により判断が異なることは学習者にとって望ましいこととは言えず、認識を高め、判断基準や許容範囲の統一が求められる¹⁹⁾。

おわりに

以上、本論では日本語学習者の作文コーパスを中心に分析を試みたが、「ちょっと」は学習者の中級レベルで頻度が高く上級レベルでも出現し、文体の意識化の必要性が明らかとなった。また、論説文において「少し」「少々」が使えるか否かについて、添削状況や日本人学生の使用状況からは、使っても悪くはないという程度の許容範囲内にあると考えてもよいようである。

しかし、適切かという疑問が残る。現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)でこれら一連の語を検索してみたところ、法律の分野における出現数がすべて「0」であった²⁰⁾。この結果から、添削として代替表現を示すだけでなく、「ちょっと」を「削除」という判断も必要になってくることが示唆される。「ちょっと」が一例のみの出現であったオンライン日本語誤用辞典(公開版 ver.1.1)では、「それはちょっとピアトリクス・ポターのせいかを考えずにいられない。」を「それは ϕ ピアトリクス・ポターの功績を考えずにいられない。」と「ちょっと」を「 ϕ 」と削除している²¹⁾。渡辺(2010b)も「論説文では主観的要素は排除されることが望まれる。程度表現である程度副詞は、絶対的な程度でない限り、程度の度合いの決定づけには書き手の主観や判断が割り込む。したがって、副詞はその用い方を誤れば、論説文において信頼性をなくしてしまう可能性がある」と述べているように、程度副詞の使用可否も含めて改めて分析する必要がある。

また、添削者が示す代替表現の相違や添削の有無も明らかになり、添削者側の意識を高める必要も見られた。学習者側に文体意識をもたせるためには、「作文」「文章表現」活動の際に、具体的な文体・ジャンルなどの条件を

¹⁹⁾ 広瀬(2010)は、「添削という一方的なフィードバックの限界を、教師、学習者双方が認識することの重要性」を主張している。

²⁰⁾ 検索対象語数 1079146 語のうち、語彙素読みの検索で「一寸」「少し」「少々」「多少」「稍」「僅か」「些か」全て結果 0 であった。

²¹⁾ http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja_wrong/ 学習者 ID Ld_026_2009

明確に示す必要がある。それは添削者も同様で、何について何のために書かせるか、せめて同一のクラスや課題においては意識的に指示し、統一した基準で添削に臨むべきであろう。

教科書による解説や用例は、単に語を入れ替えればよいような記述や練習がほとんどであるが、単に入れ替えればよいというものではないことが今回の調査からも明らかとなった。ジャンルや文体の硬軟に適切な語を、辞書において単語レベルで単純に選択するだけでは限界がある。概観したように辞書や教科書は解説や例や区分会が一致しておらず、例文や練習も不十分であるため、学習者にとって、文体差のある類義語のなかから適切な語を選ぶことはとても困難である。そのためには、文体の使い分けが必要となる語を含む典型的な例文を、その文体差をグラデーション状に示すことや、ジャンル別の語感が養えるようなテキストの読解が必要であり、それが一覧・比較できる辞書的な用例集、コーパスの構築が望まれる。今後は、今回及ばなかった現代書き言葉均衡コーパスにおける精査、さらにこのコーパスに不足している論説文における使用状況を調査し、共起する表現、ジャンル別の出現を分析することが課題である。

【引用文献】

- 石黒圭（2004）「中国母語話者の作文に見られる漢語副詞の使い方の特徴」『一橋大学留学生センター紀要』7, 3-13, <http://hdl.handle.net/10086/8537>
- 石黒圭（2011）「話し言葉と書き言葉—初年次教育の基礎資料として」『言語文化』48, 15-35, 2011-12-25, <http://hdl.handle.net/10086/22843>
- 石黒圭（2015）「書き言葉・話し言葉と『硬さ／軟らかさ』—文脈依存性をめぐって—」『日本語学』34(1), 14-24, 2015-01, 明治書院
- 井上次夫（2009）「論説文における語の文体の適切性について」『日本語教育』141号, 57-67 日本語教育学会
- 井上次夫（2010）「コーパスに基づく「語の文体」の明確化」『白鷗大学教育学部論集』4(1), 183-201, 白鷗大学
- 沖久雄（1983）「小さな程度を表す副詞のマトリックス」渡辺実編『副用語の研究』199-215 明治書院
- 柏野和佳子（2013）「書籍サンプルの文体を分類する」『国語研プロジェクトレビュー』4(1), 43-53, 国立国語研究所
- 片山きよみ・舛井雅子（2006）「初・中級レベルの日本語教育で教える程度副詞：とて

- も・大変・非常に・すごく・ひどく・本当に」『熊本大学留学生センター紀要』9, 25-53, 熊本大学 <http://hdl.handle.net/2298/14994>
- 工藤浩 (1983) 「程度副詞をめぐって」渡辺実編『副用語の研究』176-198, 明治書院
- 小寺里香 (2000) 「初級～中級学習者の発話に見られる副詞の使用について」『岐阜大学留学生センター紀要』000, 76-89 岐阜大学留学生センター
- 鈴木智美・高野愛子 (2015) 「中上級日本語学習者の辞書使用—作文時の辞書使用の詳細調査と文章表現のための辞書使用スキルアップを目指すワークショップ実践報告—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第41号, 137-156
- 高野愛子 (2011) 「日本語教育における文体指導 用語の扱われ方をめぐる諸問題」『語学教育研究論叢』第28号, 303-322, 大東文化大学語学教育研究所
- 高野愛子 (2011) 「レポート・論文の文体に関する学習者の認識—許容範囲を探るために—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第37号, 145-157
- 永岡悦子 (2009) 「日本語教科書における論文・レポートの文体の指導項目—中上級日本語教科書の比較から—」『流通経済大学社会学部 社会学部論叢』第20巻第1号, 33-45
- 広瀬和佳子 (2010) 「学習者の作文に対する解釈の多様性と『添削』の限界—日本語教師の添削過程の分析を中心に—」早稲田日本語教育学第8号, 29-43
- 前川喜久雄 (2008) 「話し言葉と書き言葉」日本語学 27(5), 23-33, 明治書院
- 三牧陽子 (2007) 「文体差と日本語教育」『日本語教育』134号, 58-67, 日本語教育学会
- 宮島達夫 (1972) 『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 宮島達夫 (1977) 「単語の文体的特徴」『松村明教授還暦記念国語学と国語史』明治書院
- 村岡貴子 (2008) 「専門日本語教育における語彙指導の課題 —アカデミックライティングの例を中心に—」『日本語学』27(10), 60-69, 明治書院
- 山路奈保子・因京子・佐藤勢紀子 (2012) 「日本人学部生の書き言葉習得」『第14回専門日本語教育学会研究討論会誌』専門日本語教育学会
- 渡辺史央 (2010a) 「論理的文章における程度副詞について—文体差と意味的用法の観点から比較を表す程度副詞を中心に—」『Nidaba』ニダバ39, 106-115, 西日本言語学会
- 渡辺史央 (2010b) 「論述文に現れた副詞の分析：留学生と日本人学生の作文より」『京都産業大学論集 人文科学系列』41, 77-92, <http://hdl.handle.net/10965/341>
- デジタル大辞泉 小学館 <http://dictionary.goo.ne.jp/jn/>
- 飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』東京堂出版
- 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』東京堂出版
- 中村明 (2010) 『日本語 語感の辞典』岩波書店
- グループ・ジャマシイ編 (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお

出版

- 安藤栄里子・恵谷容子・阿部比呂子・飯島美知子（2014）『どんなときどう使う日本語彙学習辞典』アルク
- 国際交流基金・日本国際教育協会（2002）『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』凡人社
- 日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店

【日本語学習者用教科書】

- ①二通信子・佐藤不二子（2003）『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
- ②清水明美・岩沢正子・加藤清・武田明子・福沢健編（2003）『プラクティカル日本語 文章表現編 一成功する型一』おうふう
- ③佐々木瑞枝・細井和代・藤尾喜代子（2006）『大学で学ぶための日本語ライティング 短文からレポートまで』The Japan Times
- ④友松悦子（2008）『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク
- ⑤石黒圭・筒井千恵（2009）『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク
- ⑥鎌田美千子・仁科浩美（2014）『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ練習』スリーエーネットワーク

*本論文は、以下のコーパス・データベースを用いた。

- 東京外国語大学留学生日本語教育センター（2011）『JLCTUFS 日本語学習者作文コーパス』
- 日本語学習者作文コーパス「なたね」<https://hinoki-project.org> Hinoki プロジェクト
- 日本語学習者作文コーパス <http://sakubun.jp>
- 伊集院郁子（2011）「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」
http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/koukai_data1.html
- 現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）中納言 <https://chunagon.ninjal.ac.jp>
- オンライン日本語誤用辞典（公開版 ver.1.1）http://cbllc.tufs.ac.jp/lc/ja_wrong/
- 寺村秀夫（1990）『外国人学習者の日本語誤用例集』（大阪大学；データベース版、国立国語研究所、2011年）<http://teramuradb.ninjal.ac.jp>